

藤崎の防災訓練に参加しました（2026/6/24、29）

テーマ：防災訓練、包括連携協定、インクルーシブ防災
会場：藤崎、災害科学国際研究所

令和8年6月24日、仙台市青葉区一番町の百貨店「藤崎」で、地震や火災を想定した防災訓練が行われました。藤崎と東北大学は、多様性豊かで魅力的な国際都市・仙台の実現などを目的とした包括連携協定を締結していて、藤崎の防災訓練には一昨年から災害科学国際研究所の研究者や留学生も参加しています。

今回の訓練には藤崎の従業員を含め約300人が参加し、東日本大震災と同規模の地震が発生して火災も起きたとの想定で行われました。訓練の内容はサッパシー・アナワット准教授（津波工学研究分野）らを中心として当研究所が監修し、外国人だけでなく障がいのある方やベビーカーの親子連れなど、様々な買い物客を対象とした避難誘導を盛り込みました。

訓練はサッパシー准教授の他、ボレー・ペンメレン・セバスチャン教授（インクルーシブ防災学分野）とゲルスタ・ユリア准教授（災害メモリー学分野）も参加し、開店前の午前9時半から実施。緊急地震速報が館内に流れると、従業員は日本語に加え「Protect your head」「Stay calm」などと英語を交えながらお客様に呼びかけ、店外へと誘導しました。また、訓練終了後には留学生を対象に心肺蘇生法とAED（自動体外式除細動器）の講習会が開かれ、いざという時に命を救うための方法を学びました。

6月29日には、防災訓練を振り返るワークショップが当研究所で行われました。参加者は2つのグループに分かれて討論し、「ジェスチャーによる表現をもっと工夫してほしい」「災害発生時にどう対応したらいいのか示した案内を、平時からポスターなどにして館内に貼っておいてはどうか」といった提案が出されました。

藤崎では年に2回防災訓練を実施しています。安心安全な街づくりに貢献できるよう、災害科学国際研究所では今後も訓練に参加したり、監修に携わったりするなど支援してまいります。



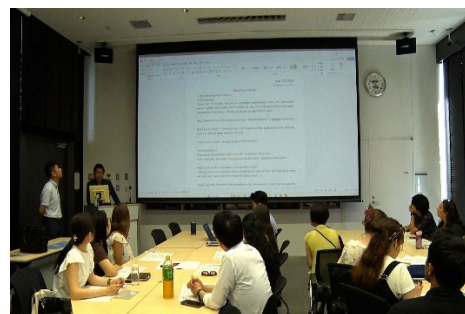
防災訓練の様子①



防災訓練の様子②



心肺蘇生法とAEDの講習会



ワークショップの様子